

患者様各位（慢性疾患対策研究所からのお知らせ）

千葉健生病院グループに対する日頃のご信頼及びご協力に感謝申し上げます。各職場の職員は従来から、地域の皆様（患者さま・ご家族）の健康管理は勿論のこと、予防医学に尽力しております。その一環として、慢性疾患対策研究所（全国の民医連に於いての前例はほぼなく、2002年から実働しております）は日常の医療資料（特にカルテ、2008年からは電子カルテ）の整理・整頓を実施し、医療の現状把握、病態解明、健康予防対策などの課題に取り組んで参りました。

上記の一環として、この度、① 2010年度にメタボ健診を受診された方々（1661名）のその後の12年間に、メタボ危険因子（肥満、高血圧、脂質異常、高血糖）の発現状態、慢性腎臓病の発症状態の面から解析しました（220名）。② 同時期に、まくはり診療所・内科外来で、メタボリックシンドロームと診断された、570名の中、患者さんの同意を得て、腎機能（血清クレアチニン、尿たんぱく・アルブミン、および一般検査）を測定した上で、腹部超音波（B-mode, カラードプラ、パルスドプラによる腎内動脈硬化病変推定）を実施した235名の検査結果を解析しました。（以上の諸検査は、すべて日常診療-保険診療-の内容です。）

その結果、

- ⑦ 肥満があると、健常人に比して、経時的に高血圧・脂質異常・高血糖が頻度高く出現していました。
- ⑧ 肥満があると、健常人に比して、慢性腎臓病が頻度高く発症していました。

上記のことから、2012年から、慢性疾患対策研究所はメタボリックシンドロームの病態を背景にした慢性腎臓病：糖尿病患者の慢性腎臓病の75%以上と確認しております＝（最終的には腎代替え療法-血液透析・腹膜透析・腎移植）や脳心血管障害に陥りやすい事が明らかになっています。

- ⑨ 上記の診断には、メタボリックシンドロームの終末像である動脈硬化（腎臓に於いては、腎内動脈硬化病変のサロゲートマーカー＝代理検査所見＝として、腎内血管抵抗（RRI）を調べましたところ、RRI値が高くなると、腎内動脈硬化病変が十分に推定できることが明らかになりました。

以上のことから、

メタボ健診の最大の利点は、（過食、運動不足などによる）肥満を早期に見つけて、保健指導を受けて、メタボ危険因子による（末期腎不全、脳心血管障害、さらには癌、認知症、フレイルなど）といった不健康な状態を防止できることにあります。

尚、この様な日常診療の結果をまとめましたので、千葉医学誌に投稿する予定です。本論文の内容に氏名、住所など個人情報は全く入っておりません。ご意見がございましたらホームページにございます、問い合わせフォームよりメールにてお願いいたします。

「この研究に検査結果など利用してほしくない場合について」ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前までの間であれば情報の削除などの対応をいたします。

最後に、千葉健生病院グループは、地域医療（かかりつけ病院）として、今まで以上に期待される医療機関となるように努力を重ねてまいりますので、ご理解とご協力をいただきたく存じます。